

## 第三者所見

新経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現に向けた中期経営計画「LIVE計画」の初年度にあたる2018年度、貴社はサステナビリティ活動を一段と進化させました。本レポートでは、一連の取り組みがさまざまな切り口から紹介されています。

全体を通して、まず印象的に伝わってくるのは、サステナビリティ活動と経営との統合が進んだ点です。具体的には、巻頭のトップメッセージにおいて経営ビジョンに込めた意図やサステナブルな経営への想いがわかりやすく語られています。キーワードである“リ・デザイン”を効果的に用い、生活習慣の改善への貢献を通じた価値創造をグローバルに展開する成長戦略や、重要な経営基盤である従業員の働きがいという後段の主要なコンテンツにつなげていく展開は、ストーリー性に富む秀逸な構成だと思えます。2019年1月に「サステナビリティ推進会議」が設置され、LIVE計画と一体的にサステナビリティ重要課題目標の進捗が管理されるようになったことも、トップのコミットメントをガバナンス面から裏付ける取り組みとして説得力があります。さらに、LIVE計画のスタートに合わせて価値創造モデルが事業活動・戦略と社会価値とのつながりを強調した形で表現された点も、経営との連動性を印象的に伝えるうえで効果的です。

これに続く2018年Highlightは、価値創造モデルを構成する成長戦略と基盤について、より具体的に説明する役割を担っています。価値創造の中核を担うオーラルヘルスケアの意義と貴社の優位性を解き、成長市場であるアジアへの展開につなげる流れは分かりやすく、説得力があります。また、「働きがい改革」の取り組みは、健康経営の実践やグローバル展開にも連なる「人権方針」の策定・公表というコンテンツとも相俟って、価値創造の基盤である「人」に対する貴社の姿勢を端的に示しています。昨年、貴社の強みを示す素材として健康経営での開示充実をご提案した者としては、社外の声に真摯に対応される姿勢に感銘を受けると共に、健康経営の射程を「意識」にまで拡張することで、“リ・デザイン”というコンセプトを徹底している点に貴社らしさを強く感じた次第です。

また、喫緊の課題である環境問題への取り組みとして新環境目標「LION Eco Challenge 2050」を策定し、2050年に向けた気候変動、資源循環に関する長期目標



(株)日本政策投資銀行  
執行役員  
産業調査本部副本部長

竹ヶ原 啓介

を設定した点も、ESG投資が急速に主流化する中、資本市場が期待するビジネスモデルの持続可能性に関する情報を提供しようとする時宜を得た対応といえます。

ライオンサステナビリティレポート2019は、こうした新しい動きをさまざまな読者層にわかりやすく伝える媒体として着実に進化を遂げつつあります。その延長として今後への期待を幾つか申し上げます。まず、短期的なテーマとして、足下で顕在化している海洋プラスチック問題への対応についての記載をより充実させても良いでしょう。ユーザーである生活者に頼らざるを得ない面もあり、難しい問題ですが、貴社の場合、オーラルヘルスケアの効果を上げるために必要な定期的なハブラシの交換を促すと同時に、回収・リサイクルシステムを構築・運用しています。今日の状態を考えると、こうした側面に光を当てることはリスク管理上重要だと思えます。

中長期的には、従来よりも高いレイヤーでサステナビリティ経営を推進する体制が構築されたことから、貴社の事業活動がもたらす価値創造をより踏み込んだ形で見せていく次の段階を検討してもよいのではないのでしょうか。具体的には、今回試行的に提示したオーラルヘルスケアがもたらす潜在的な医療費削減効果について、まず国内をベースに試算・開示し、グローバル展開に合わせて段階的に拡張していけば、事業活動に伴うポジティブなインパクトの開示として先駆的なものになるでしょう。インパクトの開示は多くの企業にとって中長期的なテーマですが、貴社はこのトレンドを先導出来るポジションにあるように見受けられます。

LIVE計画期間を通してこのレポートが不断に進化することを楽しみにしております。